



古くて新しい「ARTでまちおこし」

南阿蘇ガイドサイト立ち上げました⇒<http://www.minamiasoguide.net/>

★

お盆の帰省客もそろそろ都会に戻ろうかという8月18日。夏休みの思い出にと南阿蘇鉄道のトッコロ列車に乗って高森町を訪れた観光客。駅前から続く商店街は、夏祭りの屋台が並び賑わっていた。と、夏の午後のこと、にわかにか空を雨雲が覆い、阿蘇外輪山の向こうから雷様のゴロゴロという音。陶器の屋台をひやかしていたおばちゃんもあわてて駆け出す。ゴロゴロが近づき、やがてカリカリ、ピシッという音と共に稲光が走り、疾風が屋台のテントを吹き上げる。同時に陳列してあった陶器が宙を舞いはじめ、みるみる合体してウサビッチにトランスフォームした。スリッパやザルやホウキが、次々にネコやカメやフクロウにトランスフォームし、軽トラのスピードで街中を走り回る。映画の1シーンではない。

★★

3百年の歴史がある高森町の風鎮祭。台風を鎮め、豊作を祈願する伝統行事。メインは、町内会ごとに制作する、造り物と呼ばれる山車。全国に同じような祭りはあるが、当地の造り物は、材料に日用雑貨を用い、解体した後、その材料が元通りに使えるのがよしとされる。ほかに、「にわか」と呼ばれる民衆演劇も上演される。貴重な文化遺産。

これらは、ART（表現活動）を通したコミュニティ形成の好例。欧米では、ARTでコミュニティ再生を図る取り組みが注目されており、例えば、ハリケーン「カトリーナ」の被害から復興する過程の米国ニューオーリンズでは、ビデオボイスの手法を使い、地域の人々の心を結びつける取り組みが奏功したという。

創造都市戦略やEUの文化都市戦略など、なんのことはない、ここでは3百年も前からやっていることだ。仮装してストリートばか騒ぎをする地元の若者や、その予備軍のチビッ子に拍手を送りたい。このことを伝えずして、なんの地域づくり、なんの都市農村交流か。

